



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

出会い

主任司祭 中村

満

教皇フランシスコは、十一月二十日(日)に王であるキリストの祭日と世界青年の日を迎えるにあたり全教会に世界青年の日のメッセージを送られた。世界青年の日は、聖ヨハネ・パウロ2世教皇様が、一九八五年に始められたワールドユースデー(WYD)がきっかけで、WYDは通常三年おきに世界のさまざまな国を巡り開催されている。二〇二三年は、ポルトガルのリスボンで八月に行われる予定である。長崎からも、できれば多く参加して欲しいと願っている。

今年の世界青年の日にあたっての教皇様のメッセージは、リスボンでの開催を前にしたもので、「マリアは出掛けて、急いで…行った」をテーマにしている。A4用紙、六頁に亘

る長いメッセージであるが、特に強調されているのは、出かけて行って、イエス様との出会いをもたらすようにとの勧告です。その実例としてマリア様のエリサベト訪問を挙げています。『お告げを受けた直後に、いとこのエリサベトのもとへと「出掛けて、急いで…行き」(ルカ1:39)助けようとしたナザレのおとめです。』と。そして、続く箇所では『人生において、復活したキリストの現存を体験すること、「生きておられる」このかたと出会うことは、最高の喜びであり、だれにも「抑える」ことのできない光の大爆発です。これによって私たちは、直ちに突き動かされ、この知らせを他の人々に伝えるよう、この出会いの喜びをあかしするよう駆り立てられるのです。復活後の日々で最初の弟子たちをせきたてたものは、まさしくこの出会いです。「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち

去り、弟子たちに知らせるために走って行った」(マタイ 28:8)』

教皇様は、各国から参加する青年たち同士の出会いがあり、その出会いを通してイエス様と出会い、イエス様との出会いをもたらす者に変えられ、イエス様との出会いを実現させるためすぐに出かけて行くことを期待しています。

教皇様の文書の多くには、出向いて行く教会というテーマが流れていますが、それは、出向いて行くことが神様ご自身の姿であることを示すためだと思われまます。

今年もクリスマスを迎えようとしています。クリスマスこそが、まさに神が人間の下に出向いてきたことの証しです。イエス様は、人間と出会うために人間のもとに出向いて来られました。幼子として生まれ、人間に出会われ、神の言葉を伝え、救いの業を行われました。

イエス様との出会いがクリスマスであり、その出会いをもたらそうと出かけて行くことがクリスマスであるとも言えるでしょう。



パパ様来日三周年

助任司祭 稲田祐馬

二〇一九年十一月二三日から二六日にかけて、パパ様が三八年ぶりに日本を訪れてくださいました。あの日から三年が経ちます。私は、たまたま当時助祭でしたので、教皇ミサで助祭奉仕をすることができました。本当にラッキーだったと思います。また、その後世界的に新型コロナウイルスに見舞われましたので、訪日のタイミングも今思えばギリギリでした。

教皇ミサの前日リハは浦上教会で行われました。バチカンの儀典局の神父様たちが面倒を見てくださいました。わたしたちは、聖堂におわしますご聖体、イエス様におじぎをして挨拶をしますが、彼らは片膝をついて挨拶をしていました。スータンもシュツとしていてカッコよく、木製の床に片膝をついたとき「ゴッ!」と大きな音が鳴ったのを覚えていました。ホンモノが来たな、とその時思いました。神学生たちはみんなそわそわしながら当日を迎え、リハをしたり、ごミサ前は雨でしたので、内陣のステージの水をかきだしたりしながら準備をして、いよいよパパ様



がパパモービルで会場入りされて、「Vivat Vivat PAPA!」と叫び歌った時の興奮は今も思い出します。われらがパパ様 came たぞ、と。そしてその日は「王であるキリストの祭日」でした。

パパ様はたくさんメッセージをわたしたちに残してくださいました。それはわたしたちが今まで受けてきた傷について、今できる証について、これから目指すべき地についてです。また、パパ様は訪日を終えて帰りの機内のインタビューでウクライナとロシアについて触れています。それは、二〇一六年にウクライナとロシアで捕虜の交換の交渉が成立したこと、それも武力なしに成立したことについてです。可能だと、非武装の平和は可能なんだ、とおっしゃられています。しかし、残念ながらロシアのウクライナ侵攻が起こっています。平和は悪意によって傷つけられます。それはあつてはいけないことです。でも、本来の平和は悪意によって滅びるような、そんな弱弱しいものではないのです。

わたしたちは今一度、イエス様の約束を思い出したいと思います。「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和をあなたがたに与える」。あなたが祈るとき、イエス様とあなたの間には平和が実現していることを

思い出したいのです。祈る者ならば、だれもが経験しているイエス様との平和です。その平和をもってわたしたちは平和の使徒として、それぞれの小さな事柄からでも平和を実現していくのです。わたしたちの平和の礎はイエス様です。なので、平和は悪意によって滅びるようなそんな弱弱しいものではないのです。

あらためて、パパ様のメッセージを読み返したいと思います。なお、訪日の際も含めたパパ様のメッセージは、カトリック中央協議会のホームページで公開されています。

高校生黙想会の報告と 中高生たちに伝えたいこと

助任司祭 西田 祐尚

去る十一月三日（木・文化の日）に下五島地区合同高校生黙想会が行われました。今回は、福江教会と浦頭教会から計九名の参加でした。講師は元下五島地区長・福江教会主任司祭の小島栄神父様でした。今回の黙想会のテーマは、「キリストの平和」。ウクライナ・ロシアの戦争状態にある中で、キリストの平和とは何なのか。平和とは何なのかについて考える時間でした。小島神父様は講話の中で、高校生平和大使の話し

をされ、「皆さんと同じぐらいの私たちも、世の中で核兵器が使われなために、また、平和な世の中にならうように活動している人たちがいます。そして、平和とは身近なことから始まります。同年代の人たちが平和を実現するために働いているという胸に、皆さんも自分にできることを考えてみて、初めてみてください」と、高校生たちにエールを送りました。集まった参加者の中には、感想で、「自分も同年代の人たちに負けないように、平和のための自分にできる活動をしていきたい」と述べた参加者もいました。

この黙想会を通して、「キリストの平和」について今一度よく考える、黙想するひと時となりました。

さて、話はだいぶ変わりますが、今回の黙想会で小島神父様は清峰高校（佐世保市）から広島カープでプロ野球選手として活躍したとある選手の話がされました。その選手は佐世保の教会の信者で、洗礼を受けているそうです。高校生の時、部活や勉強と教会の両立が難しくなり、次第に教会から足が遠のいた時期があったとのことでした。しかし、ある日親御さんから「野球も学校も教会も、全部きちんとやるといふ約束で、野球をすることを認めているし、応援している。けれども、最初に約束したことを守れていないではないか」と叱られたそうです。そのことがあってから、彼は、他にもその教会の信者の子であった三人の仲間たちと、教会に行ってから部活に行く、部活が終わってから教会のミサに与るようになったとのことでした。

この話を聞いて、今、福江教会の中学生や高校生たちに伝えたいことがあります。それは、「何にでも全力を注いで下さい」ということです。確かに、今の子どもたちは、勉強、部活、模擬試験などとやることも多く、土日は部活が模試という日々でしょう。わかっちゃいるけど教会に行く時間が取れないこともあると思います。ですが、部活も教会も、きちんと両立させて、全力を注いでプロになった人もいます。片方に注力したからプロになったわけではなく、何にでも全力を注いだからこそ、プロになったのだと思います。だからこそ、教会に来ることも、力を抜かないで欲しいと思います。それが、自分の夢を極めるために必要なことではないでしょうか。



稲田神父様 霊名のお祝い

九月十七日(土)晩ミサにて、シモン稲田祐馬神父様の霊名のお祝い式が行われた。初めに岩下議長、次に子ども代表で馬津川莉子さんがお祝いの挨拶を行い、その後花束と記念品が贈られた。

神父様は、お礼の言葉の中で「毎年ありがとうございます。ついこの間お祝いして貰ったような気がします。楽しく毎日過ごしていると一年があっという間です。」「先日、ある神学生から『十月十一日楽しみじゃないね』と言われ、思い当たらなかったの、『なんで?』と聞いてみると『十月十一日は稲田神父様が神父様になった日じゃん』と。司祭叙階の日を覚えていて貰えて嬉しくて、体が震えたのは初めてでした。十月十一



日は見失った羊の日です。神様に見つけて頂き、お尻を叩かれて、気を引き締めていきたいと思えます。」と話された。

普段は玉之浦の司牧や子どもたちのお世話をされている稲田神父様、福江教会での主日ミサを司式することは多くないですが、神父様の説教のファンは多く存在します! コロナ禍で思い通りの司牧とはほど遠い現状ですが、若さを生かして乗りきって行くことを期待しています!!

中村神父様 霊名のお祝い

九月二十五日(日)聖ミカエル中村満神父さまの霊名の祝日にあたり祝賀式が行われた。

まず、信徒を代表して、副議長の濱口栄次さんから、赴任して八年目を迎える神父様のこれまでの功績に感謝が述べられ、「五島出身の神父さまは神様から選ばれて、五島を守っていくように言われて来たのかもしれない。神父様がこれからも笑顔で聖務に励まれるようにお祈りしています」とお祝いの言葉が贈られました。また子供を代表して小畑あいかささんから「私たちの為にいつもミサ

や、ゆるしの秘跡をして下さりありがとうございます。黙想会では牢屋の窄の殉教者の事を勉強してよくわかりました。神父様はいつもにこにこしてすごいなあと思う。」とかわいらしい言葉も贈られた。



神父様は「赴任して八年目。赴任地としては最長、皆さんのお陰で務めています。六五歳になり歳にはかなわない。少しでも奉仕出来ればと思っている。」と話され、「九月は敬老の日があり、どの教会に行っても敬老のお祝いと一緒に祝いしてもらい時々寂しいと思う時もあった。今日初めて自分だけのお祝いではなく、だかうれしい」と言って会場を笑わせる場面もあった。

花束や記念品目録、似顔絵などをプレゼントされたが、とりわけ顔を拡大した似顔絵には「バッチリ」と満面の笑みで喜ばれた。その後、信徒会館でお祝いの茶話会があり、差し入れの手作りケーキなどで喜びを分かちあった。

清掃活動報告

―香朱子海岸―

十月二日(日)午後香朱子海岸にて清掃活動が行われた。教皇様の環境保護に対する呼びかけに伝える形で始まった「すべての命を守るための月間」(毎年九月一日〜十月四日)の企画である清掃活動も今年で三年目となった。

今年も、多数の信徒や神父様、シスター方が海岸付近のごみ収集を行った。海岸の目立つところは少なかったが、茂みの方には砂や草に埋まった空き缶やペットボトル、漁網やロープが多く見られた。

一時間余りの作業で、今年もたくさんのごみが集められた。この活動の経緯や主旨を多くの方が理解し、来年はさらに多くの方に参加して頂くように願っている。



初聖体式 2022

おめでとう!!

十一月二十日(日)二番ミサにて、初聖体式が行われた。今年には男子二名、女子三名の計五名の子供たちが初聖体のお恵みをいただいた。

中村神父様は、説教の中で「例年福江教会では王であるキリストの祭日に初聖体式を行っています。イエス様は世の終わりで一緒に居てくださいます。その約束の実現のために、聖体の秘跡をお遣わしになりました。今日、子供達のもとにイエス様が来てくださいます。イエス様を迎えて、一緒に日々を歩いて行くことができます。これから子供達を支えて下さいますようにお祈りしましょう。」と述べられた。

説教のあと神父様の招きのもと、子供たちと保護者の決意表明と信仰宣言が行われ、ついに聖体拝領の時間となった。子供たちは、待ちに待った御聖体を小さな掌に頂くとじっと



見つめて大事そうに口にする様子が見られた。

ミサの最後に感謝式が行われ、初聖体児と保護者代表により神父様やカテキスタへの感謝の言葉が贈られた。神父様からお祝いの言葉として「皆さん、今日の事は忘れないと思います。そして今日、イエス様が皆さんのもとに来てくださいました。これからは、皆さんがイエス様のごとくに会いに来る番です。ぜひ日曜日のごミサに来てください。」と述べ

かみさまによろこんでいただくためにがんばること!



◆マザーテレサ
戸村友希乃
きょうかいでのおいり
をします。



◆ラファエラ
本山あん
おいのりをがんばり
ます!



◆マリア
田中乃愛
ままのおてつだい
べんきょうしてる
びあのれんしゅつ



◆ヨゼフ
中野ひびと
おとうさんとおかあ
さんのおてつだいを
する。べんきょうを
がんばる。



◆トミコ
真鳥煌平
きょうかいがつこう
をがんばります。

られた。

ミサの

後、初めての御聖体の味を尋ねると「なんか味がわからなかった」「お菓子みたいな感じだった」などの感想が聞かれた。



倉庫が完成しました!

福江教会隣接の倉庫が、九月末に完成しました。聖堂の横入口近くのため、目立ちすぎないように教会の外壁に近いトーンの壁を中村神父様に選んでいただいたとのこと。以前使用していた倉庫より若干小さくはなったものの、内部は効率よく収められるよう工夫がなされています。

コロナ禍が落ち着き、様々な活動がこれまで通り行われるようになったらこの倉庫を皆で活用いたしまししょう。



女性部 親睦バレー大会

九月二三日(祝)三井楽町の多目的集会施設にて、下五島教区女性部親睦バレー大会が開催された。参加したのは福江、三井楽、浦頭、水ノ浦の四チームで総当たりの六試合が行われた。福江チームは女性部だけで参加人数が満たなかったため、神父様方に応援で入って頂いた。試合はどの信徒も真剣に、かつ楽しんでプレーし白熱した熱戦ばかりとなった。福江チームは三試合を一勝二敗で総合四位の結果だった。

コロナ禍のためか、福江の女性部の参加者が少なく練習もままならなかったが、選手からは「疲れたけど楽しかった」との感想が聞かれ、皆楽しそうにプレーし良い汗をかいていた。次回はコロナの不安無く、多くの信徒が参加することを期待します!

